

# とうきょう すぐわくプログラム活動報告書

ピノキオ幼稚舎芦花保育園

## 1. 活動のテーマ

＜テーマ＞

植物

＜テーマの設定理由＞

保育園周辺の豊かな植物環境。

保育園のデザインテーマが緑となっていること。

生物として最古の生き物で今も身近にある不思議を子ども達に感じてもらいたかったこと。

## 2. 活動スケジュール

4月～5月) 植物って何だろう？という不思議を問い合わせ、すぐわくプログラムの取り組みを伝える。身近な植物を観察してみる。

6月～7月) 梅雨時期の植物を観察する。

8月) 植物を使った水遊びを楽しむ。

9月～12月) 3 グループでの活動を始める。植物観察、色水作り、果物食べ比べを行う。

1月～2月) 3 グループ活動、植物観察、図書館利用、果物食べ比べ、発表準備。

3月) 活動発表。

### 3. 探究活動の実践

#### ＜活動の内容＞

##### ・活動のために準備した素材や道具、環境の設定

##### ・活動中の子供の姿・声、子供同士や教諭との関わり 等を記載ください。

準備道具) 色鉛筆、画用紙、折り紙、映像記録、植物写真、PC、ルーペ、顕微鏡、ライトテーブル、双眼鏡、図書、図鑑、製氷機、トレー、果物、花、自然植物

活動内容) 初めは4人で始まったが、他の子ども達から「自分達もやりたい！」と声が上がり3グループ14人で活動をした。植物について色々な図鑑で調べる、戸外に出てルーペや双眼鏡を使って植物を観察する、花屋に行き色々な花を見て購入する、植物を種から鉢植えで育てる、園内に花や観葉植物を飾る、図書館に行き植物図鑑を借りる、様々な葉や花の色に興味を広げて色水作りをする、夏の季節に氷で花の指輪作りをする、果物に興味を広げお店に行き果物を購入してきて食べ比べする、果物でスムージー作りをクッキングして皆で飲む。

子どもの様子) 園内に植物の写真を多く掲示したり観葉植物を増やすことで、より関心を深める様子が見られた。初めは植物の色や形、匂いなどに興味を持っていたが、徐々に植物や花の名称を覚えることに夢中になり、植物の仕組みについて理解できるようになった。「なぜこんな形なんだろう？」「どんな味がするのかなあ？」など数えきれない疑問が子ども達から溢れ、それに対して「やってみようか！」「こういうこともできるよ」と次に繋げられるような言葉を意識して保育士が関わるようにしていった。



#### 4. 振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

植物をテーマにしたことで幅広く活動を行うことが可能となった。少人数のグループで実施することで子ども達の「今、感じたこと」の言葉を拾いやすくなった。活動の環境設定では、園内に植物の写真を季節に合わせて掲示し、観葉植物を増やすなどして身近な発見や気づきが得られるようにした。また子ども達の興味は保育者の想像を良い意味で裏切ることが多く、展開の変化を保育者が面白いと感じることも大切だと感じた。

グループ活動ではそれぞれの担当保育者によって活動が変わることも良いが、戸外活動の場合保育者の人数に影響がある場合もあり、より綿密な計画と振り返りの共有が重要であることを痛感した。次年度は初めの計画段階で職員の振り返りの日時を決めておくことにより充実した活動が進められると思う。